

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの独自の理念をあげ、実施はしている。	○	結果に出ているかどうかを話し合ったことがないこともあり、振り返りの機会をつくり個々を見直す。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ある程度共通の考えの中で取り組んで行っているが、十分なものになりきれていない	○	理念の実践にむけては時々再認識の場が必要にあると思われる。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念に基づいたケアの実践を行なっている事を広報や面会時の際に伝えてきている。	○	・家族はどう思われているのか、家族の思いを聞き出し、ケアの一員として一緒に取り組んでいてもらいその様な中からより一層の理解を得ていく。 ・今後もひだまり新聞の発行
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつ程度でとどまってしまっており、気軽に立ち寄られる事は少ない。	○	・地域交流の場への参加 ・気軽に行き来できるような関係づくりとして、ひだまりカフェ(お茶会)の積極的な開放、お誘いを行いきっかけとする。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・入居者個人で参加されておられる方はおられるが交流の機会も少ない状況にある。 ・ホーム便りの発行を行い、近隣の自治会の方へは配布している。	○	積極的に参加が出来るように行事等の把握を行い、ホーム内ばかりでの生活にならないように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	特に取り組みはない。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	改善については、リーダー会、全体ミーティングではかかっていけている。自分たちを少しでも見直す機会となっている	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議内容をミーティング等で周知し、改善ポイントを見直すきっかけになっている。	○ サービスの向上については、今まで以上の取り組みへの話し合いを行い、ホームの方向性を明確にし取り組む。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	今年、成年後見制度、権利擁護事業を活用している方が入居されたが、内容についての理解は全職員できていない。	○ 学ぶ機会をもっていきたい。制度等の確実な知識を得たい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	園内全体での取り組み、学習の場が設けられている。	○ 再認識の場が極めて少ない状況にあり、社会的にも問題視されていくこともあり、確実な知識を学び、理解しておくことが重要。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明がなされており、理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第3者委員の設置がある。廊下等にもポスター等で苦情が表せれるところがあると掲示してある。	○  意見そのものが少ない状況にあると思われる。何でも言い合うことができ、言ってくださるような関係作り、方法が必要(入居者だけの会議等)。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・今年度より2ヵ月毎金銭管理報告、生活情報を手紙で報告している。 ・来訪時細めに報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施している。意見箱の配置、廊下等に第3者の連絡先の掲載したポスターの掲示。	○  意見そのものが少ない状況にあると思われる。意見を聞きだすためにもアンケート等の工夫をし、意見が出やすいのであれば必要であると思われる。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施している。	○  ミーティング等での機会はあるも、意見の出やすい場作りが必要であるように感じる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限ではあると思われる。入居者への影響も考慮できていると思われる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外の研修だけではなく、園内研修等の実施。	○	もう少し機会や、参加への回数が多くてもよいのではないかと思われる。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している。	○	定期的ではないが年数回の開催の参加はある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間が確保されておらず、曖昧である。	○	より良いケアを提供するためにも確実な休憩時間の確保。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		○	アドバイスのものを求めることができるような場がほしいと感じられることもある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ある程度は聞き出せたりしてはいるも、奥深いところまで入り込めて、聞き出せていない状況にある。	○  ・情報不足などところもある。アセスメント等も含めたうえで聞き取る努力や、受けとめられる人間への成長。 ・個別対応
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ある程度は行っているものの、奥深いところまで入り込めていない状況にあり、聞き出せていないこともある。	○  関係作りを始め、家族の意向の理解を行う。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長からの助言により努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・大きな取り組みはない。家族の意見、考えが重要視されていることが多い。 ・入居前の見学をされたりと実際にホームを見て決められる方もおられる。	○  サービスの開始にあつたては、ホーム内でも考え方の話し合いが必要にあると思われる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一人ひとりの活躍の場というものを日常生活の中から見つけ支援してはいるが、こちらが主体になってしまいがちなところもある	○  常に入居者主体で行うことを頭におき取り組んで行くようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	できている家族もあるが、こちらからの促し不足など ころもあり、ケアの一といえないところもある。	○	家族を巻き込んだケアに取り組む
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、より良い関係が築いていけるように 支援している	できている家族もあるが、こちらからの促し不足など ころもある。	○	今までの家族関係の把握を行い、入所により関係が 離れてしまわないように支援をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている	できるだけ途切れないよう努めているも、馴染みの継 続をされている方はほとんど少ない状況である。	○	できるだけ途切れないように取り組み、継続を行 なっていく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、支 え合えるように努めている	努めてはいるも能力等により関わり合いの中で温度差 が生じているように感じられることがある。	○	関係作りはこれから着実に取組んでいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継 続的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している	特に取り組みはない	○	・そのような状況にあれば大事にしていきたい。 ・そこまでの入居者同士の付き合い自体が少ないよ うに感じられる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ本人の思い、本人らしさは大事にしている。</li> <li>・自己決定についても常にそのような場を設けている。</li> </ul>	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・把握については初期段階でとどまってしまっており、積極的に行なえていないところがある。</li> <li>・アセスメント不足</li> </ul>	○ アセスメントの充実を行っただけでその方の支援の方向性を見出していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の記録により把握している。</li> <li>・より詳しく聞きたいときには直接当事者に聞いている。</li> </ul>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ本人の意向を取り入れ、家族の意向も取り入れている。</li> <li>・話し合いについては十分にできていない方もいる。</li> </ul>	○ 話し合い等、出来てないところをふまえて、それぞれの意見、思いをしっかりと出していただいた中で計画の作成をしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る限り期間内で見直しを行なうように応じてはいるものの、応じきれないこともある。</li> <li>・入院等による状況の変化にあった見直しの実施は行なえている。</li> </ul>	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと期間内で見直しを行なうように取り組む。</li> <li>・見直し時期を明確にしておく。</li> </ul>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・変化のある際には特に細かく記録し、残せている。 ・別に気づきシートという書式でユニットごとで気づいたことを記入できている。	○	介護計画等の見直しに十分に活用していく
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	正月、盆等家ですごされたり外泊等それぞれに応じた対応ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れは常時行なっている。警察、消防等への協力も得ている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望に応じた対応をとっている、受診の付き添いが難しい家族は意向により往診という形で対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医は確保できている。診断、治療は受けられる体制にはなっている。助言については特にない状況にある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護士の常駐 ・常に連携をとり対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院、家族間で話し合いは行なわれており、必要に応じて施設職員も参加を行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に決定的な方向で話が行なわれているわけではない。少しずつ個々の想いは聞いている。	○	家族、医療を交え考えや想いを聞きだし、方向性をつくりだして行く。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	詳しく話し合いが行なわれているわけではない。	○	・これからの早急な検討や準備を行なう。 ・ホーム側での方向性の決定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ情報をいただき、今までの生活の継続を行っている。家具等馴染んだ道具の持ち込みもお願いしている。	○	・アセスメントを初期段階だけでなく聞き取る。 ・話し合いを具体的にしていく必要性。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・心がけてはいるも、尊重した声掛けができていないこともある。 ・気の緩みもあり、慣れ慣れしさが出てしまっている。	○	再認識の場がなく、機会の場が必要。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	十分に傾聴を行なうことを心がけて対応し、納得していただくようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ペース、考えは大事にしているが、十分に応じられないことがある。 ・こちらのペースに巻き込んでしまってしまうこともある。	○	・個々での思いをしっかりと受けとめ支援する。 ・個別対応
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・散髪は可能な限り希望通りや、今までの行きつけのところへ行っていただいている。 ・服装についてもその日の好みで出来るだけ選んでもらうようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>少しでも残存能力を生かし、食事作りをはじめ、食事自体を楽しみにしていただけるよう取組んでいきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>家族の方の意向等を含め聞き取り等をおこない、楽しみとなればとり入れて行きたい。</p>
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄パターンの把握</li> <li>・不快感の軽減を図る</li> <li>・残存機能維持</li> </ul>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>本人の希望をしっかりと取り入れる。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ一人ひとりに役割、楽しみなどを持っていただくように支援する。</li> <li>・アセスメントによりその方の能力、得意なことを引き出せるように支援する。</li> </ul>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されておられる方もありますが希望、能力に応じたものにはなっておらず、こちらでの管理が主になっている。	○	・お金の使用の機会を提供 ・本人の力量の把握
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・家族の協力もあり、その日その日で出かけられる方もおられる。 ・希望等のある際にはできる		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全ての入居者ではないが、自宅や買い物等に出掛けたりと出来ている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にない状況にある。	○	個々の能力に応じて家族とのつながりを大切する意味でも取り入れて行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・特に家族の来訪がほとんどである。 ・来訪が減少しつつある家族もおられる。	○	来訪が極端に少ない家族へは負担にならないところで来訪を促す。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の学習、又は他の職員も報告書で周知できている。	○	正しく理解を得ておくためにも再学習を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・自室へ帰室された際の所在確認の実施 ・転倒の危険がある方への見守るなかでも本人らしさを大事にした配慮を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険には配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりの事故防止としての取り組みにまではいたっていない。	○	事故等回避する意味でも一人ひとりにあわせた取り組みをおこなっていき、全職員が把握をする。
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年1回の救急講習への参加 ・緊急時マニュアルの把握		
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方も含めた避難訓練の実施。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・一人ひとりのリスクは話し合い、ある程度の対応は把握している。 ・家族への説明も行なっており、ある程度の理解は得ている。	○	家族との話し合い
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・他の職員への速やかな報告、連携。 ・医療機関への連絡。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに目が通せるようにファイルしてある。	○	疾病、薬についての学習会
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便については、チェック表で確認をしいている。食事、水分摂取等に気をつけるようにこころがけている。日中の活動については対応不足さを感じられるところもある	○	薬に頼りがちなところもあり、日中の活動、飲食により薬を出来るだけ使用しない対応を行う。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前の口腔ケアが主であり、毎食後はできていない。	○	毎食後の口腔ケアへの取り組みの徹底。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った対応を行なってはいるも、全体的に水分摂取に関しては少ないという印象がある。勧めても十分に摂取されない方もおられる。	○	今後の取り組み方への課題と思われる。摂取していただけるような確実な方法とともに、摂取が少ない方の摂取量の把握をおこなっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・食前の手洗い、消毒。 ・マニュアルの把握	○	・予防の継続化 ・研修会の開催
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・心がけており、実施している。通知文等もあり注意はしている。 ・栄養士による学習会	○	気づいた時に行っているところもあり、曜日や時間帯を決め手での取り組みの方が確実であり職員間でも意識し合えるように思われる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・家庭的に近づけるようにしている。 ・花などの配置		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、花などを取り入れて過ごしやすく分かりやすい様に空間作りを行い、配置換えについてもできる限り行なわず最小限にとどめるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	確保しており、話をされたり横になったりと思いきいにすごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	できているところもある。ただ居室によっては殺風景 なところもある。	○	こちらのアプローチを積極的に行う。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・室温等は入居者に常に確認をしている。 ・換気についても定時での実施を行なっている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下等に手すりの設置はなく、身体機能を十分に生か せるものではなく感じられる。	○	廊下等の手すりの検討
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	不安、失敗を取り除く声掛けをし、自信を持っていた だけのようにし本人さんの力でしていただくように支 援を心がけている。	○	・分かる力、できる力の把握 ・情報の共有化
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	職と一緒に畑、花作り等取り組んでいる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>				
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ユニット内の中庭等では畑や、花作りをし季節感が身近に感じられるようになっている。
- ・少人数という中で、現実ではないが家族的雰囲気の中ですごされておられる。